

はじめに

今からおよそ五百年前、日本中で有力な武将^{ぶしやう}たちが、自分の支配^{しはい}する土地に、戦い^{せん}に備えた城をつくり、それぞれの勢力を広げようと、争いをくり返していました。戦^{いくさ}が多かったことから、のちに戦国時代^{せんごくじだい}とよばれるこの時代に、今の神奈川県で大きな力をもっていたのが北条早雲^{そううん}です。

現在の小田原は、城下町^{じやうかまち}として全国に広く知られていま

すが、小田原を城下町として整え、その後の発展の基礎^{きそ}をつくったのが、北条五代とよばれる武将たちです。北条早雲にはじまる北条氏は、小田原城^{きよはらぎ}を拠点^{きょてん}（足場^{あしば}となる地点）として、約百年間にわたって伊豆^{いず}、相模^{さがみ}、武蔵^{むさし}の国を治め^{おさ}、今の関東地方の北部にまで勢力を広げていきました。

この五人は、どんな武将だったのでしょうか。小田原の町をどのように治め、そして、どのようにして関東地方に力を広げていったのでしょうか。

